まんのう町　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
年齢別・地区別クロス集計結果　分析結果

まんのう町　介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定資料

１．調査の概要

この資料は、「まんのう町　介護介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果を年齢区分（65～69歳、70～74歳、75～79歳、80～84歳、85～89歳、90～94歳、95～99歳の７区分。100歳以上の回答者はいませんでした。）及び地区区分（満濃地区、琴南地区、仲南地区）でクロス集計したデータをもとに、年齢別・地区別の両方の観点から回答傾向をまとめたものです。

有効回答数は656件です。年齢区分ごとの回答者数は、65～69歳137人、70～74歳152人、75～79歳202人、80～84歳94人、85～89歳44人、90～94歳25人、95～99歳2人となっています。地区別の回答者数は、満濃地区411人、琴南地区93人、仲南地区152人です。

※90～94歳（25人）は他の年齢区分に比べ回答者数が少なく、95～99歳（2人）は極めて少数のため、数値の変動が大きくなっています。また、琴南地区（93人）は満濃地区（411人）・仲南地区（152人）に比べ回答者数が少ないため、この点も踏まえてご覧ください。

２．年齢別・地区別に見る主な特徴

（１）家族構成・介護の必要性・経済状況

〇年齢別

家族構成をたずねた設問では、「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が全体で40.1%と最も多く、次いで「息子・娘との２世帯」21.0%、「その他」19.8%となっています。年齢別にみると、１人暮らしの割合は70～74歳で7.2%と最も低く、90～94歳では40.0%まで上昇しており（65～69歳13.9%）、年齢が上がるほど１人暮らし世帯の割合が高くなる傾向がみられます。

「普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」という設問では、「介護・介助は必要ない」の割合が65～69歳で95.6%であるのに対し、75～79歳では87.6%、80～84歳では75.5%、85～89歳では47.7%と、80歳前後を境に大きく低下しています。反対に「現在、何らかの介護を受けている」の割合は、65～69歳の2.2%から80～84歳で7.4%、90～94歳で40.0%へと大きく増加しており、介護ニーズは80歳代以降に顕著に高まることがわかります。

年齢区分	介護・介助は必要ない	何らかの介護が必要だが未受給	現在、介護を受けている
65～69歳	95.6%	2.2%	2.2%
70～74歳	92.1%	4.6%	2.6%
75～79歳	87.6%	7.4%	4.0%
80～84歳	75.5%	14.9%	7.4%
85～89歳	47.7%	29.5%	18.2%
90～94歳	16.0%	44.0%	40.0%

経済状況についての設問（「大変苦しい」「やや苦しい」の合計）は、65～69歳で28.4%、70～74歳で29.6%、75～79歳で33.6%となっており、これらの年代でやや高めです。一方、80歳代後半は「ふつう」と回答する割合が高くなる傾向（85～89歳68.2%）がみられ、経済的な厳しさを訴える割合はむしろ低下しています。ただし90～94歳では「大変苦しい」が32.0%と急増しており、この年代は回答者数が25人と少ないため、少数のケースの影響を受けている可能性があります。

〇地区別

家族構成については、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合が琴南地区は 50.5%と３地区の中で最も高く、仲南地区が 34.2%、満濃地区が 39.9%となっています。反対に「１人暮らし」は琴南地区が 17.2%、満濃地区が 13.6%に対し仲南地区は 9.2%と、地区によって世帯構成に差がみられます。

「介護・介助は必要ない」の割合は仲南地区が 85.5%、満濃地区が 83.9%に対し琴南地区は 75.3%と低く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合も琴南地区は 14.0%と３地区で最も高くなっています。経済状況（「大変苦しい」「やや苦しい」の合計）では、琴南地区が 37.6%、仲南地区が 34.9%に対し満濃地区は 28.0%と、満濃地区で経済的な厳しさを訴える割合が低くなっています。

（２）身体機能・転倒予防

〇年齢別

階段の昇り降りや椅子からの立ち上がりについては、年齢が上がるにつれて「できない」の割合が明確に増加します。「階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか」では、「できるし、している」の割合が 70～74 歳で 67.8%であるのに対し、80～84 歳では 50.0%、85～89 歳では 15.9%まで低下し、80 歳代半ばで大きな段差がみられます。「椅子から何もつかまらずに立ち上がる」についても同様に、65～69 歳 83.2%から 85～89 歳 34.1%へと低下しています。

一方、「15 分位続けて歩いていますか」については、65～69 歳（73.0%）から 80～84 歳（64.9%）まで大きな差がなく緩やかな低下にとどまっており、85～89 歳で 43.2%、90～94 歳で 24.0%へと急落する形になっています。階段昇降・立ち上がりに比べ、歩行の維持は年齢による低下がやや緩やかであることがうかがえます。

転倒への不安（「とても不安」「やや不安」の合計）は、65～69 歳の 46.0%から 70～74 歳 55.3%、80～84 歳 73.4%、85～89 歳 91.0%、90～94 歳 92.0%と、年齢とともに一貫して上昇しています。外出頻度についても、「週５回以上」外出する割合が 65～69 歳で 54.7%であるのに対し、80～84 歳では 30.9%、90～94 歳では 4.0%まで低下し、「外出を控えている」と回答した割合は 65～69 歳 16.1%から 90～94 歳 72.0%へと増加しています。

〇地区別

身体機能に関する項目は、地区別にみると琴南地区で他の２地区より低くなる傾向が一貫してみられます。「階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか」で「できるし、している」の割合は、満濃地区 56.2%、仲南地区 55.3%に対し琴南地区 41.9%です。「椅子から何もつかまらずに立ち上がる」も満濃地区 75.2%、仲南地区 71.1%に対し琴南地区 50.5%、「15 分位続けて歩いていますか」も仲南地区 67.1%、満濃地区 63.5%に対し琴南地区 53.8%と、いずれも同じ傾向です。

地区	階段を昇る	立ち上がる	15 分歩く
満濃地区	56.2%	75.2%	63.5%
琴南地区	41.9%	50.5%	53.8%
仲南地区	55.3%	71.1%	67.1%

転倒への不安（「とても不安」「やや不安」の合計）は、琴南地区 64.6%、仲南地区 63.1%、満濃地区 59.4%とほぼ近い水準です。外出頻度では「週５回以上」の割合が満濃地区 38.7%、仲南地区 38.8%に対し琴南地区 28.0%と低く、「外出を控えている」割合も琴南地区 30.1%、仲南地区 28.3%、満濃地区 21.9%の順に高くなっています。身体機能の低下が外出の少なさと重なっている点は、琴南地区で特に留意が必要です。

（3）口腔・栄養

〇年齢別

「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」と回答した割合は、65～69 歳 27.0%から 70～74 歳 32.9%、80～84 歳 48.9%、90～94 歳 68.0%と、年齢とともに一貫して上昇しています。「お茶や汁物等でむせることがある」も同様の傾向で、65～69 歳 25.5%から 90～94 歳 56.0%へと上昇しています。

自分の歯が 20 本以上ある割合（入れ歯利用の有無を問わない）は、65～69 歳で 64.2%であるのに対し、80～84 歳では 44.7%、90～94 歳では 16.0%まで低下しており、歯の本数の減少が加齢とともに進んでいることが示されています。「どなたかと食事をともにする機会」について「毎日ある」の割合は、65～69 歳 65.7%から 90～94 歳 40.0%へと低下しており、高齢層ほど食事の孤食化が進んでいる可能性がうかがえます。

〇地区別

「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」の割合は満濃地区 38.0%、琴南地区 38.7%、仲南地区 38.8%とほぼ同水準ですが、「お茶や汁物等でむせることがある」は琴南地区 41.9%と、満濃地区 34.5%、仲南地区 29.6%に比べて高くなっています。自分の歯が 20 本以上ある割合（合計）も、満濃地区 51.3%、仲南地区 47.4%に対し琴南地区 44.1%とやや低く、口腔機能に関する項目でも琴南地区で低めの傾向がみられます。食事を共にする機会（「毎日ある」）は、満濃地区 62.5%、仲南地区 59.9%、琴南地区 59.1%と、地区による差は比較的小さくなっています。

（4）日常生活動作（ＩＡＤＬ）・認知機能

〇年齢別

「物忘れが多いと感じますか」で「はい」と回答した割合は、65～69 歳の 40.9%から 70～74 歳が 46.7%、80～84 歳が 57.4%、85～89 歳が 70.5%と年齢とともに上昇しています。日常生活動作では、「バスや電車を使って１人で外出できる」割合が 65～69 歳の 84.7%から 80～84 歳が 71.3%、85～89 歳が 43.2%、90～94 歳が 20.0%と 85 歳以降に大きく低下し、「自分で食品・日用品の買い物をしている」も 65～69 歳の 85.4%から 90～94 歳が 52.0%へ、「自分で食事の用意をしている」も 65～69 歳の 74.5%から 90～94 歳が 60.0%へと、それぞれ低下しています。

年齢区分	１人で外出できる	買い物ができる	食事の用意ができる
65～69 歳	84.7%	85.4%	74.5%
70～74 歳	86.8%	90.1%	78.9%
75～79 歳	75.7%	79.2%	66.3%
80～84 歳	71.3%	79.8%	61.7%
85～89 歳	43.2%	63.6%	63.6%
90～94 歳	20.0%	52.0%	60.0%

なお、「新聞を読んでいますか」については、65～69 歳 60.6%に対して 80～84 歳 78.7%とむしろ高齢層のほうが高い結果となっており、すべての生活動作項目が加齢とともに低下するわけではないことがわかります。

〇地区別

物忘れを感じる割合（「はい」）は満濃地区が 48.4%、琴南地区が 48.4%、仲南地区が 50.7%とほぼ同水準で、地区による差はみられません。一方、日常生活動作では、「バスや電車を使って１人で外出できる」割合が満濃地区が 75.7%、仲南地区が 77.0%に対し琴南地区は 68.8%、「自分で食品・日用品の買い物をしている」も満濃地区が 81.8%、仲南地区が 79.6%に対し琴南地区は 78.5%とやや低くなっています。「新聞を読んでいますか」（「はい」）も満濃地区が 72.5%に対し琴南地区が 60.2%、仲南地区が 65.1%となっており、身体機能と同様、生活動作の面でも琴南地区で低めの傾向がみられます。

（５）社会参加・就労状況

〇年齢別

「収入のある仕事」に週４回以上従事している割合は、65～69 歳の 37.2%から 70～74 歳が 15.8%、75～79 歳が 11.4%、80～84 歳が 4.3%と急激に減少しています。就労状況の設問全体でも、「引退した」の割合は 65～69 歳の 35.8%から 70～74 歳が 52.0%、75～79 歳が 53.0%、80～84 歳が 57.4%と上昇しており、70 歳前後で引退が多数派になることがわかります。地域の健康づくり活動等への参加意向（「是非参加したい」「参加してもよい」の合計）は、65～69 歳の 56.2%から 90～94 歳は 24.0%へと年齢とともに低下しています。

〇地区別

「収入のある仕事」に週４回以上従事している割合は、仲南地区が 19.7%、満濃地区が 15.6%に対し琴南地区は 10.8%と低く、「引退した」の割合は満濃地区が 52.1%、琴南地区が 47.3%に対し仲南地区は 41.4%と低くなっています。地域の健康づくり活動への参加意向（「是非参加したい」「参加してもよい」の合計）は、満濃地区が 48.0%、琴南地区が 49.5%、仲南地区が 47.3%とほぼ同水準です。一方、町内会・自治会活動への「参加していない」の割合は、満濃地区が 40.1%、琴南地区が 33.3%に対し仲南地区は 25.0%と、仲南地区で地域活動への参加が比較的活発である様子がうかがえます。

（６）相談相手・社会的なつながり

〇年齢別

心配事や愚痴を聞いてくれる相手として「配偶者」を挙げる割合は、75～79 歳の 66.8%から 80～84 歳が 47.9%、90～94 歳が 24.0%へと低下しています。一方、「同居の子ども」は 65～69 歳の 23.4%から 85～89 歳が 36.4%へと上昇しており、年齢が上がるにつれて相談相手が配偶者から子どもへと移っていく傾向がみられます。友人・知人と会う頻度について「ほとんどない」と回答した割合は、65～69 歳の 13.9%から 85～89 歳の 18.2%まで大きな変化がありませんが、90～94 歳では 44.0%まで上昇しています。

〇地区別

「配偶者」を相談相手として挙げる割合は満濃地区が 59.1%、仲南地区が 56.6%、琴南地区が 53.8%とほぼ近い水準ですが、「そのような人はいない」の割合は仲南地区が 6.6%、満濃地区が 4.1%に対し琴南地区は 1.1%と低く、地区により差があります。友人・知人と会う頻度が「ほとんどない」の割合は、満濃地区が 15.3%、仲南地区が 14.5%に対し琴南地区は 10.8%と、琴南地区でやや低くなっています。

（７）健康状態・生活習慣

〇年齢別

現在の健康状態について「とてもよい」「まあよい」の合計は、65～69 歳の 81.1%から 75～79 歳が 68.8%、80～84 歳が 59.6%、90～94 歳が 40.0%へと低下しています。生活習慣については、「ほぼ毎日お酒を飲む」割合が 65～69 歳の 22.6%から 85～89 歳が 2.3%へ、「ほぼ毎日タバコを吸っている」割合も 65～69 歳の 13.9%から 80～84 歳の 8.5%まで低下し、85 歳以降はほとんどみられなくなっています。「この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった」割合は、各年代とも 36.8～54.5%の範囲で推移しており（85～89 歳 54.5%が最も高い）、年齢による一貫した傾向はあまりみられません。

〇地区別

現在の健康状態について「とてもよい」「まあよい」の合計は、仲南地区が 72.3%、満濃地区が 68.2%、琴南地区が 66.6%とほぼ近い水準です。「ほぼ毎日タバコを吸っている」割合は、満濃地区が 8.3%、仲南地区が 7.9%に対し琴南地区は 16.1%と約２倍になっています。また、「この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった」割合は、仲南地区が 45.4%と満濃地区の 38.4%、琴南地区の 36.6%に比べて高くなっています。

（８）認知症に関する意識

〇年齢別

「認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいる」と回答した割合は、各年代とも概ね 7～18%の範囲であり、年齢による明確な差はみられません。一方、「認知症に関する相談窓口を知っていますか」で「はい」と回答した割合は、65～69 歳の 32.8%から 90～94 歳の 16.0%へと低下しており、若い年代の方が相談窓口の認知度が高い結果となっています。

〇地区別

「認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいる」の割合は、満濃地区が 11.7%、琴南地区が 12.9%、仲南地区が 13.8%とほぼ同水準です。一方、「認知症に関する相談窓口を知っていますか」で「はい」と回答した割合は、琴南地区が 34.4%と、満濃地区の 27.3%、仲南地区の 28.3%に比べて高くなっています。「地域全体で認知症への理解を深めるために必要な活動」として「認知症の方や家族が参加しやすい場の整備」を挙げる割合も、琴南地区が 49.5%、仲南地区が 48.0%、満濃地区が 44.5%の順です。

３．まとめ

年齢別の特徴

・身体機能（階段昇降、立ち上がり、外出頻度など）は、80 歳前後を境に「できない」「控える」の割合が明確に増加します。

・介護ニーズ（「現在、何らかの介護を受けている」）は、80 歳代から急速に高まり、90 歳代では約４割に達します。

・１人暮らし世帯の割合や、相談相手が配偶者から子どもへ移る傾向など、家族・生活形態も年齢とともに変化しています。

・就労や地域活動への参加意欲は年齢が上がるほど低下しており、特に 70 歳前後を境に「引退した」が多数派になります。

・一方で、経済的な「ゆとり」感、気分の落ち込み、認知症の症状の有無などは、年齢による一貫した傾向がみられない項目もあります。

地区別の特徴

・身体機能（階段昇降、立ち上がり、歩行）、外出頻度、日常生活動作（買い物・外出等）に関する多くの項目で、琴南地区が満濃地区・仲南地区に比べて割合が低い傾向がみられました。

・介護・介助の必要性についても、「介護・介助は必要ない」の割合は琴南地区が 75.3%と、仲南地区の 85.5%・満濃地区の 83.9%に比べて低くなっています。

・喫煙（「ほぼ毎日吸っている」）は琴南地区が 16.1%と、他の２地区（満濃地区 8.3%、仲南地区 7.9%）の約２倍です。認知症の相談窓口の認知度は、琴南地区が 34.4%と３地区中で最も高くなっています。

・仲南地区は、町内会・自治会活動の参加率が他の２地区より高く、就労（「引退した」）の割合が低いなど、社会参加の面で活発な様子がうかがえる一方、気分の落ち込み（「はい」45.4%）を訴える割合はやや高くなっています。

・満濃地区は経済的な厳しさを訴える割合が他の２地区より低く、身体機能・生活動作に関する項目は比較的良好な水準で推移しています。

90～94 歳（25 人）は他の年齢区分に比べ回答者数が少なく、95～99 歳（2 人）は極めて少数のため、これらの年代の数値は特に大きく変動しやすくなっています。また、琴南地区（93 人）は満濃地区（411 人）・仲南地区（152 人）に比べ回答者数が少ないため、この地区の数値についても参考値として扱い、いずれも傾向を断定的に解釈しないよう留意する必要があります。